

授業カブラッシュアップ®研修会Ⅲ・Ⅳ



学習指導要領の趣旨や、学習定着度状況調査等の結果を踏まえ、授業における言語活動の充実に視点を置いた学習活動や学習評価の在り方等を改善するための提案授業・講義・演習を実施しました。

今回は、11月に実施した小学校算数と中学校数学の研修会の様子を紹介します。

小学校 算数

数学的な思考力・判断力・表現力を育てる算数科指導の在り方

(1)提案授業

「どんなけいさんになるのかな」 第1学年

授業者：平泉町立長島小学校 教諭 鈴木 浩実

助言者：県南教育事務所 指導主事 高橋 徹

★既習事項を活用した自力解決・学び合い

・「たし算」「ひき算」を学習する中で習得した解決方法を活用して自力解決、学び合いを行うことをねらいとした。問題の把握にあたっては、足りない言葉や数値に気付かせ、補う活動を行うことにより、主体的に問題に取り組み、思考力・判断力・表現力を高めようと考えた。学び合いでは、多様な解決方法について、その有用性に気付くことができるようにしたいと考えた。



★学習経験をもとにした振り返り

・学びが深まった場面を板書に位置付けることにより、振り返りの場面において、本時の学習の軌跡が分かるようにし、振り返りがしやすいように考えた。本時においては、言葉、数、絵や図などの活用、有用性について視点を絞り、児童一人一人の気付きや学習経験をもとに、振り返ることができるようにしたいと考えた。



(2)講義 講師：県南教育事務所 指導主事 高橋 徹

1 全国学調の問題について

1年生に関わる問題が例年より多く扱われていること、低学年の学習経験が大切であることを踏まえ、授業構想、授業づくりを行ってほしい。

2 演算決定について

数と計算領域では、計算練習に終始しがちだが、児童自身が主体的判断で演算決定することができる学習場面、問題が必要である。

3 素地的な学習活動について

図、表、グラフなども、当該学年の学習内容に即して、適切に扱ってほしい。特に、数量関係のつまずきは、数直線、線分図等の活用意欲・活用経験に大きく関わっているため、意図的・計画的に指導をお願いしたい。

中学校 数学

言語活動を大切にしたい学び合いを通して、基礎基本を身に付けさせる授業づくり

(1)提案授業

「平面図形」 第1学年

授業者：奥州市立水沢中学校 教諭 高橋 勇樹

助言者：県南教育事務所 指導主事 千葉 重徳

★主体的な学び合いを引き出すための「つなぐ」「もどす」

・生徒の理解の状況を注意深く見取り、それに応じた適切な助言・発問を心掛け、生徒の主体的な学び合いを引き出すことをねらいとした。ペアやグループによる学習では、活動が活発に行われるよう生徒同士をつなぐ言葉がけをしたり、全体学習では、理解が深まるような発問を工夫したりし、自分たちで課題解決を目指していけるような環境づくりをしたいと考えた。



★考えを深めていくような関わり合い

・ペアやグループによる学習を中心に、お互いの考えを深めていくような学び合いを目指した。本時では、答えを確認する場面で、その方法や理由についての説明を重視した。その際、説明のモデルを示すとともに、大切にしたい数学用語等に気付かせ、自分たちで間違いを正し、より分かりやすい説明を目指せるように配慮した。



(2)講義 講師：県南教育事務所 指導主事 千葉 重徳

1 言語活動について

○ 言語は、知的活動、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、豊かな心を育む上でも必要である。

○ 学力の要素の一つ、「思考力・判断力・表現力等」を育むためには「数式などを含む広い意味での言語」が基盤となる。 → 記録、要約、説明、論述などの言語活動

○ 数学科では「数学的活動」を通して言語活動を実現する。

2 諸調査結果の活用について

○ 全国学調等には、子どもたちに身に付けさせたい力について、具体的なメッセージが込められている。

→ 学習状況の把握のみならず、授業改善に生かす

→ 小学校算数との関連、系統性にも注目

○ 諸調査を検証機会とする指導改善のPDCAサイクル